

《専門科目》

科目名	保育実習指導				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

「保育実習」における豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて中心的に学ぶ。

「保育実習」の意義、目的、内容の理解
実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえた保育実践力の育成
実習の総括と自己評価及び保育に対する課題や認識の明確化

《テキスト》

保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル社

《参考図書》

汐見稔幸「保育所保育指針ハンドブック2017年告示版」学研

《授業の到達目標》

「保育実習」の意義・目的・内容について説明することができる。

創造的表現力等、保育士として乳幼児と関わるうえで必要な技能を身につけて表現することができる。

保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。
保育に対する自己の課題を説明することができる。

《授業時間外学習》

授業内容の予習・復習のほか、保育実習にかかわる活動(読み聞かせや手遊びの練習)を自己学習の中で行う。
また、教材研究、指導案の作成を行う。
本科目は自己学習として15時間以上を要する。

《成績評価の方法》

模擬保育・保育技術などの発表40%、提出物60%で評価し総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

授業時間内や次授業においてフィードバックをする。グループワークへの支援・発言へのコメントや提出課題の振り返りを通して、実習に臨む姿勢や様々な知識・技術の獲得を支援する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保育実習の振り返り 授業計画について	保育実習指導の授業の進め方の確認、保育実習におけるエピソードや学習内容についての振り返り(グループワーク)[時間外学習]保育実習の日報を見直ししておく。
2	実習の意義・保育士の役割と生活	保育実習の意義、保育士の資質と役割についての理解、保育所の生活についての事例研究[時間外学習]保育所保育指針についてテキストを参考に予習しておく。
3	保育の一日の流れ、実習園に対する理解	保育の現場における一日(映像視聴)、実習園についての理解と学習(ワークシート)[時間外学習]予め実習園についての基本情報を収集しておく。
4	子ども理解と保育事例の研究	多様な子どものニーズや抱える課題について理解、子どものもつ課題に対する事例研究(ディスカッション)[時間外学習]ディスカッションの内容を見直し考えを深める。
5	子育て支援と保育事例の研究	保育の現場における保護者支援についての理解、保護者支援の実際(グループワーク)[時間外学習]グループワークの内容を見直し考えを深める。
6	日報の書き方(観察と記録)	保育現場における観察の視点の学習(グループワーク)、日報における記録の方法(ワークシート)[時間外学習]保育実習の日報を見直し課題点を明らかにしておく。
7	日報の書き方(エピソード記録の書き方)	エピソード記録の書き方の学習、日報におけるエピソード記録の練習(ワークシート)[時間外学習]学習内容をもとにワークシートを完成させる。
8	指導計画立案(責任実習)	保育実習における責任実習の目的と内容についての確認[時間外学習]授業内容をもとに指導計画の立案を行う。(ワークシート)
9	指導計画の検討(責任実習)	保育実習を想定した責任実習の内容の精査、指導計画の検討(ディスカッション)[時間外学習]自身の指導計画について発表する準備をしておく。
10	模擬保育(年少児)	年少児模擬保育実践(グループワーク・プレゼンテーション)、実践に対する見直し[時間外学習]年少児とのかかわりについてテキストを参考に予習しておく。
11	模擬保育(年長児)	年長児模擬保育実践(グループワーク・プレゼンテーション)、実践に対する見直し[時間外学習]年長児とのかかわりについてテキストを参考に予習しておく。
12	保育教材の研究	絵本・手遊び・紙芝居についての事例研究、題材の検討と制作[時間外学習]実習に向けて主活動の内容を検討する。
13	保育教材の研究	題材の制作、教材の使用と見直し(グループワーク)[時間外学習]実習に向けて主活動を行う準備をする。
14	実習直前指導	保育実習に向かう姿勢、緊急連絡、提出物、実習における評価等の確認、実習課題の確認(グループワーク)[時間外学習]保育実習における実習課題を明確にしておく。
15		本科目は通年15回開講科目である。

《専門科目》

科目名	保育実習指導				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

「保育実習」における豊かな学びと自己課題の明確化のために、以下のことについて中心的に学ぶ。

「保育実習」の意義、目的、内容の理解
 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえた保育実践力の育成
 実習の総括と自己評価及び保育に対する課題や認識の明確化

《テキスト》

保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル社

《参考図書》

保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル社

《授業の到達目標》

「保育実習」の意義・目的・内容について説明することができる。

創造的表現力等、保育士として乳幼児と関わるうえで必要な技能を身につけて表現することができる。

保育士の専門性と職業倫理について説明することができる。

保育に対する自己の課題を説明することができる。

《授業時間外学習》

授業内容の予習・復習のほか、保育実習にかかわる活動(読み聞かせや手遊びの練習)を自己学習の中で行う。

また、教材研究、指導案の作成を行う。

本科目は自己学習として15時間以上を要する。

《成績評価の方法》

模擬保育・保育技術などの発表40%、提出物60%で評価し総合的に評価し、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

授業時間内や次授業においてフィードバックをする。グループワークへの支援・発言へのコメントや提出課題の振り返りを通して、実習に臨む姿勢や様々な知識・技術の獲得を支援する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事後指導・今後の課題	保育実習 と本授業の振り返り、卒業後の進路の展望と自己課題の明確化 [時間外学習] 実習日誌を見直し、気づきや課題について考えを深める。
2		
3		本科目は通年15回開講科目である。
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門科目》

科目名	保育実習指導				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育士の職域は広がっており、児童福祉施設や障害者支援施設等における専門職としての活躍が求められる。本科目では「保育実習」では、施設保育士に必要な基礎的知識・技術、職業倫理などをもとに、実際の現場において必要となる観察のポイント、情報収集の整理の仕方、チームワークをすすめていく上で必要なコミュニケーションスキルについてグループ討議などを通して学ぶ。

《授業の到達目標》

福祉施設の役割と機能を体験を基に具体的に説明できる。
 児童家庭福祉・社会的養護・障害者福祉に係る理解を基に、家庭や地域での生活実態に即した保護者・家庭支援のための知識、技術について論じることができる。
 保育士や支援員の業務内容・職業倫理について具体的に理解し、実践に適用できる。
 専門職としての自己の課題を明確に述べることができる。

《成績評価の方法》

実習前試験60%、グループワークや授業における発言20%、実習書類・提出課題20%で評価する。
 総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

守巧他 改訂版「施設実習パーフェクトガイド」わかば社、2023
 「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》

全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会発行、2018
 津田望監修 「認知・言語・運動プログラム 発達障がい児のためのグループ指導」明治図書、2008

《授業時間外学習》

これまでに学習してきた科目、および、保育実習指導I（施設）、保育実習II（施設）で学んだ内容を復習してください。授業の中で明確となった、個々の目標などを確認しながら、実習に取り組み、事後学習を通して、施設保育士への理解を深めてください。（本科目の時間外学習時間は15時間です。）

《課題に対するフィードバック等》

各自の実習の振り返りをグループで共有し、討議していきます。教員は適宜コメントをしますが、メンバー間での話し合いを通じて、多様な考え方を取り入れる姿勢を評価します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習の意義と目的	保育実習 の意義と目的，実習全体のプロセスを理解する。 予習：教科書 ，教科書 該当箇所 復習：授業配布プリント
2	資料作成の方法	保育実習I（施設）を振り返りまとめ、発表資料を作成する。 予習：実習日誌等の振り返り 復習：各自発表資料作成・発表練習
3	実習施設についての情報共有	前回の授業でまとめた各自の実習施設について発表し情報を共有する。 予習：実習日誌等の振り返り 復習：発表内容の整理
4	実習課題の設定・実習日誌の書き方	保育実習 （施設）の振り返りから保育実習 での実習課題を明確化する。 予習：実習日誌等の振り返り 復習：実習における自己課題をまとめる
5	施設職員の職種と役割	施設において利用者・利用児を支援する専門職の職種と役割について学ぶ。 予習・復習：児童福祉分野の専門職の職種と役割についてまとめる
6	施設職員の援助技術	対人援助におけるの利用児・者への受容的態度と共感的態度、ニーズを把握する意義とその方法について学ぶ。 予習・復習：授業配布プリント
7	福祉施設利用児・者の理解と権利擁護	「子どもの最善の利益」について学ぶとともに、具体的な場面での実習生の言動について考える。 予習：全国保育士会倫理綱領の復習 復習：授業配布プリント
8	責任実習指導案の立案	施設養護や障害児・者支援についての理解を深め、責任実習の指導案を作成する。 予習・復習：各実習施設の利用者を想定して、責任実習の指導案を作成
9	模擬実習	立案した指導案に沿って模擬責任実習を行い、準備物や環境設定・言葉がけを振り返ることを通して指導案を訂正す 予習・復習：模擬保育の準備と指導案の訂正
10	実習関係書類の作成について	実習先施設や大学へ提出する書類の意義と作成方法について確認する。 予習：教科書 の熟読 復習：実習書類作成
11	各種計画の立案	個別支援計画、自立支援計画の意義と目的を理解し、作成の仕方を学ぶ。 予習・復習：授業配布プリント
12	実習前試験	施設実習実習に関する知識・手続き等、準備事項の理解度を確認する。 予習：これまでの授業の復習 復習：試験結果を振り返る
13	実習に向けての最終確認	実習後の施設への提出物と提出・受取方法、大学への提出物、お礼状の書き方等を確認する。 予習：教科書 復習：授業配布プリント
14	実習の総括と自己評価	実習先評価や実習日誌・自己評価から、自己課題を明確化する。 予習：実習日誌・自己評価の振り返り 復習：自己課題の明文化
15	-	-本科目は通年15回開講科目である。

《専門科目》

科目名	保育実習指導				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

保育士の職域は広がっており、児童福祉施設や障害者支援施設等における専門職としての活躍が求められる。本科目では「保育実習」では、施設保育士に必要な基礎的知識・技術、職業倫理などをもとに、実際の現場において必要となる観察のポイント、情報収集の整理の仕方、チームワークをすすめていく上で必要なコミュニケーションスキルについてグループ討議などを通して学ぶ。

《授業の到達目標》

福祉施設の役割と機能を体験を基に具体的に説明できる。
 児童家庭福祉・社会的養護・障害者福祉に係る理解を基に、家庭や地域での生活実態に即した保護者・家庭支援のための知識、技術について論じることができる。
 保育士や支援員の業務内容・職業倫理について具体的に理解し、実践に適用できる。
 専門職としての自己の課題を明確に述べることができる。

《成績評価の方法》

実習前試験60%、グループワークや授業における発言20%、実習書類・提出課題20%で評価する。
 総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

守巧他 改訂版「施設実習パーフェクトガイド」わかば社，2023
 「実習の手引き」国際学院埼玉短期大学幼児保育学科

《参考図書》

全国保育士会編「全国保育士会倫理綱領ガイドブック」全国社会福祉協議会発行，2018
 津田望監修「認知・言語・運動プログラム 発達障がい児のためのグループ指導」明治図書，2008

《授業時間外学習》

これまでに学習してきた科目、および、保育実習指導I（施設）、保育実習II（施設）で学んだ内容を復習してください。授業の中で明確となった、個々の目標などを確認しながら、実習に取り組み、事後学習を通して、施設保育士への理解を深めてください。（本科目の時間外学習時間は15時間です。）

《課題に対するフィードバック等》

各自の実習の振り返りをグループで共有し、討議していきます。教員は適宜コメントをしますが、メンバー間での話し合いを通じて、多様な考え方を取り入れる姿勢を評価します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習報告会・事後指導	実習施設の概要や機能・役割、施設保育士の業務内容とその役割、実習総括と自己評価のまとめと発表をする。 予習：実習成果をまとめる 復習：既習事項を振り返る
2	-	-本科目は通年15回開講科目である。
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	中平 浩介				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

各々がテーマを定め、テーマに沿ったグループを構成して論文を書く。各ゼミの指導教員が調査や研究方法、論文の内容等について指導を行う。個人及びグループの研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文とグループ論文及びグループ論文の抄録を作成し、発表に備える。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、授業中に指示する。

《授業の到達目標》

教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
 研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
 問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文概要	卒業研究の取り組み方 卒業論文の構成 卒業研究・卒業論文作成の倫理 <準備学習> 昨年度の「プレゼミ」の学修内容を振り返っておく。
2	卒業研究個人研究課題	卒業研究個人研究課題候補の提示とディスカッション<準備学習> 「プレゼミ」において研究テーマを決定したプロセスを振り返っておく。
3	卒業研究個人研究課題の設定	卒業研究個人研究課題の選定、研究グループ構成の検討準備<準備学習> 複数の個人研究のテーマ案について、ゼミ内で情報共有しておく。
4	卒業研究グループ構成の検討	卒業研究個人研究課題に沿ったグループ構成の検討、研究方法の検討(グループワーク) <準備学習> 個人研究テーマを踏まえてグルーピングの案を考えておく。
5	卒業研究グループ構成の決定	卒業研究グループ研究課題の設定と研究方法の検討及びディスカッション(グループワーク) <準備学習> 個人研究とSDGsの目標との関係を見直しておく。
6	卒業研究方法の検討	個人研究・グループ研究について、研究方法に関するディスカッション(グループワーク) <準備学習> 昨年度の「プレゼミ」における研究方法について情報を集めておく。
7	研究計画の検討	個人研究・グループ研究について、研究計画の作成<準備学習> 前回のグループ協議の内容を整理しておく。
8	調査・研究準備(1)	研究資料の収集 研究準備 アンケート内容などの検討<準備学習> 「CiNii」「卒論抄録」など、情報収集の方法について確認しておく。
9	調査・研究準備(2)	研究資料の収集 実験などの準備 アンケート用紙などの構成と作成<準備学習> 情報収集すべき事柄をリストアップしておく。
10	調査・研究活動(1)	実験・調査・アンケート等の実施<準備学習> 研究テーマとSDGsの目標との関係を見直し、必要な情報が収集できるよう整理しておく。
11	調査・研究活動(2)	実験・調査・アンケート等の実施<準備学習> 授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
12	調査・研究活動(3)	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析の準備<準備学習> 授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
13	調査・研究活動(4)	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析<準備学習> これまでに収集した情報を整理し、研究テーマとの関係を考えておく。
14	調査・研究データの解析	実験・調査・アンケート等の解析<準備学習> ゼミの中で情報交換を進め、自分の研究にも活用できる情報があれば、改めて情報収集しておく。
15	ゼミ全体としての情報共有	調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況報告(グループワーク、発表学修)<準備学習> 収集した情報や解析結果を簡潔に整理し、情報共有に備える。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	古木 竜太				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

多くの幼稚園や保育園では、「表現発表会」という年中行事がある。この表現発表会では主にオペレッタ、リズム劇や遊戯などが行われ、クラス担任が指導・援助しているケースが多い。そこで、本授業では、歌や踊り、台詞の練習、衣装や舞台装置の製作など、グループワークを通じて総合的にオペレッタを学び、その学修成果を本学の文化祭（五峯祭）や学外施設で披露する。

《授業の到達目標》

オペレッタに関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような演じ方や歌い方を修得し、実践できる。子どもが演じることを念頭に置き、表現領域に関する指導・援助の留意点について説明できる。担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、活動記録などの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

『たのしいオペレッタ』音楽之友社
 浅野ななみ『浅野ななみの発表会はお・ま・か・せ 劇あそびとミニオペレッタ CDつき保育選書』ひかりのくに
 本学の「卒業研究抄録集」

《授業時間外学習》

履修者専用のTEAMSを作成し、毎回の授業の活動内容について記述する。パフォーマンスは適宜、動画で撮影してTEAMSに保存する。TEAMSの動画を活用して自らのパフォーマンスについて振り返り、総合表現の質向上を目標として自主練習を行う。

《課題に対するフィードバック等》

履修者専用TEAMSを活用して、指導教員からその都度適宜指導・助言する。助言内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総合表現活動としてのオペレッタ	参考に前年度までのビデオ観賞、配役、台本の決定〔準備学習〕練習に取り組む演目の台本について加筆や修正事項をまとめておくこと（復習1時間）
2	オペレッタの演出	音楽の効果的活用法、身体表現、舞台効果、台本作成〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
3	オリジナル台本の作成（全体構成）	曲付け、効果音、舞台装置のデザイン〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
4	オリジナル台本の作成（分野別）	曲付け、振付け、効果音、衣装のデザイン〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
5	身体表現技法の基礎	クラシックバレエの基礎レッスン（バー・センター）〔準備学習〕専門用語（プリエ、タンデュ、パッセ、ビルエットなど）について調べる（予習1時間）
6	動きと空間のヴァリエーション	動きとしての見せ方、空間の使い方〔準備学習〕興味のある身体表現的パフォーマンスに関する動画を視聴し、動きや舞台空間の特徴について調べる（予習1時間）
7	上演作品に関する身体表現（基礎）	振り付けと演技の練習（留意点と実践）〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
8	上演作品に関する身体表現（応用）	振り付けと演技の練習（留意点と実践）〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
9	通し稽古（全体構成の把握）	通し稽古による全体構成の確認〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
10	通し稽古（部分稽古）	場面ごとの部分練習（立ち位置や幕の開閉、音出しのタイミング）〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
11	通し稽古（全体構成の再確認）	初回の通し稽古や部分稽古の課題を踏まえ全体構成の再確認〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
12	通し稽古（作品の質向上）	第9～11回の舞台稽古の修正点を抽出し、作品の質を高める。〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
13	作品小発表会のリハーサル（準備・全体構成）	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
14	小発表会のためのリハーサル（プレ本番）	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
15	作品小発表会	前期の学習内容のまとめとして、ゼミ内で小発表会を行う。〔準備学習〕前期授業の総括、自他のパフォーマンスを振り返り、課題などレポートにまとめる（復習1時間）。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	大野 琴絵				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

多くの幼稚園や保育園では、「表現発表会」という年中行事がある。この表現発表会では主にオペレッタ、リズム劇や遊戯などが行われ、クラス担任が指導・援助しているケースが多い。そこで、本授業では演目の選択、歌や踊り、台詞の練習、衣装や舞台装置の製作など、グループワークを通じて総合的にオペレッタを学び、その学修成果を本学の文化祭（五峯祭）や学外施設で披露する。

《授業の到達目標》

オペレッタに関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような演じ方や歌い方を修得し、実践できる。子どもが演じることを念頭に置き、表現領域に関する指導・援助の留意点について説明できる。担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、練習や発表に取り組む意欲や態度40%を踏まえ、卒業研究ルーブリック表に基づき、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

『たのしいオペレッタ』音楽之友社
 浅野ななみ『浅野ななみの発表会はお・ま・か・せ 劇あそびとミニオペレッタ CDつき保育選書』ひかりのくに
 本学の「卒業研究抄録集」

《授業時間外学習》

履修者専用のTEAMSを作成し、毎回の授業の活動内容について記述する。パフォーマンスは適宜、動画で撮影してTEAMSに保存する。TEAMSの動画を活用して自らのパフォーマンスについて振り返り、総合表現の質向上を目標として自主練習を行う。

《課題に対するフィードバック等》

履修者専用TEAMSを活用して、指導教員からその都度適宜指導・助言する。助言内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総合表現活動としてのオペレッタ	参考に前年度までのビデオ観賞オペレッタの演目、配役、台本の決定〔授業時間外学習〕決定した演目の台本について加筆や修正事項をまとめておくこと（復習1時間）
2	オペレッタの演出	音楽の効果的活用法、身体表現、舞台効果、台本作成〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
3	オリジナル台本の作成（全体構成）	曲付け、効果音、舞台装置のデザイン〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
4	オリジナル台本の作成（分野別）	曲付け、振付け、効果音、衣装のデザイン〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
5	造形表現の実践（基礎）	舞台（大道具、小道具）衣装等の製作（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
6	造形表現の実践（基礎）	舞台（大道具、小道具）衣装等の製作（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
7	造形表現の実践（応用）	舞台（大道具、小道具）衣装等の製作（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
8	造形表現の実践（応用）	舞台（大道具、小道具）衣装等の製作（留意点と実践）〔時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
9	通し稽古（全体構成の把握）	通し稽古による全体構成の確認〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
10	通し稽古（部分稽古）	場面ごとの部分練習（立ち位置や幕の開閉、音出しのタイミング）〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
11	通し稽古（全体構成の再確認）	初回の通し稽古や部分稽古の課題を踏まえ全体構成の再確認〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
12	通し稽古（作品の質向上）	第9～11回の舞台稽古の修正点を抽出し、作品の質を高める。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
13	作品小発表会リハーサル（準備・全体構成確認）	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
14	小発表会のためのリハーサル（プレ本番）	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
15	作品小発表会	学習内容のまとめとして、ゼミ内で小発表会を行う。〔授業時間外学習〕前期授業の総括、自他のパフォーマンスを振り返り、課題等レポートにまとめる（復習1時間）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

各々がテーマを定め、テーマに沿ったグループを構成して論文を書く。各ゼミの指導教員が調査や研究方法、論文の内容等について指導を行う。個人及びグループの研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文とグループ論文及びグループ論文の抄録を作成し、発表に備える。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
本学の「研究紀要」ほか、授業中に指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文概要	卒業研究の取り組み方 卒業論文の構成 卒業研究・卒業論文作成の倫理 <準備学習> 昨年度の「プレゼミ」の学修内容を振り返っておく。
2	卒業研究個人研究課題の検討	卒業研究個人研究課題候補の提示とディスカッション<準備学習> 「プレゼミ」において研究テーマを決定したプロセスを振り返っておく。
3	卒業研究個人研究課題の設定	卒業研究個人研究課題の選定、研究グループ構成の検討準備<準備学習> 複数の個人研究のテーマ案について、ゼミ内で情報共有しておく。
4	卒業研究グループ構成の検討	卒業研究個人研究課題に沿ったグループ構成の検討、研究方法の検討(グループワーク) <準備学習> 個人研究テーマを踏まえてグルーピングの案を考えておく。
5	卒業研究グループ構成の決定	卒業研究グループ研究課題の設定と研究方法の検討及びディスカッション(グループワーク) <準備学習> 個人研究とSDGsの目標との関係を見直しておく。
6	卒業研究方法の検討	個人研究・グループ研究について、研究方法に関するディスカッション(グループワーク) <準備学習> 昨年度の「プレゼミ」における研究方法について情報を集めておく。
7	研究計画の検討	個人研究・グループ研究について、研究計画の作成<準備学習> 前回のグループ協議の内容を整理しておく。
8	調査・研究準備(1)	研究資料の収集 研究準備 アンケート内容などの検討<準備学習> 「CiNii」「卒論抄録」など、情報収集の方法について確認しておく。
9	調査・研究準備(2)	研究資料の収集 実験などの準備 アンケート用紙などの構成と作成<準備学習> 情報収集すべき事柄をリストアップしておく。
10	調査・研究活動(1)	実験・調査・アンケート等の実施<準備学習> 研究テーマとSDGsの目標との関係を見直し、必要な情報が収集できるよう整理しておく。
11	調査・研究活動(2)	実験・調査・アンケート等の実施<準備学習> 授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
12	調査・研究活動(3)	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析の準備<準備学習> 授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
13	調査・研究活動(4)	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析<準備学習> これまでに収集した情報を整理し、研究テーマとの関係を考えておく。
14	調査・研究データの解析	実験・調査・アンケート等の解析<準備学習> ゼミの中で情報交換を進め、自分の研究にも活用できる情報があれば、改めて情報収集しておく。
15	ゼミ全体としての情報共有	調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況報告(グループワーク、発表学修)<準備学習> 収集した情報や解析結果を簡潔に整理し、情報共有に備える。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	武内 道郎				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

各ゼミの研究領域から各々がテーマを定め、テーマに沿ったグループを構成して論文を書く。各ゼミの指導教員が調査や研究方法、論文の内容等について指導を行う。個人及びグループの研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文とグループ論文及びグループ論文の抄録を作成し、発表に備える。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
 研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
 問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文概要	「幼児教育ゼミ」の研究テーマについて知り、研究の方向性を検討する。＜準備学習＞「日本人の良さ」について事例をたくさん調べておく。
2	個人研究課題の検討	「日本人の良さ」の事例、諸外国と比べての違いを協議する。＜準備学習＞日本人と諸外国と比較した具体的場面を調べておく。
3	個人研究課題の検討	「日本人の良さ」について、なぜ日本に根付いているのか、日本人の気質について協議する。＜準備学習＞「日本人の良さ」を維持する日本人の気質を調べておく。
4	個人研究課題の検討	「日本人の良さ」について、日本に根付いている歴史・文化的背景を協議する。＜準備学習＞「日本人の良さ」が維持できている歴史的背景等を調べておく。
5	卒業研究グループ編制	個人研究課題の決定。その内容に沿ったグループの編制、研究方法・分担を検討する。(グループワーク)＜準備学習＞分担案をまとめておく。
6	卒業研究グループ編制	グループの研究課題を検討し、個人研究課題との関連の考察、課題の再検討。個人研究テーマの情報共有。(グループワーク)＜準備学習＞個人研究の内容をまとめておく。
7	個人研究	「日本人の良さ」のデータ上の根拠、エビデンスについて協議する。＜準備学習＞「日本人の良さ」の根拠を調べておく。
8	グループ協議	「日本人の良さ」のデータ上の根拠、エビデンスについてグループ内で協議する。(グループワーク)＜準備学習＞調べた内容をまとめておく。
9	個人研究	「日本人の良さ」が失われる危険性について協議する。＜準備学習＞「日本人の良さ」が失われる危険性を調べておく。
10	個人研究	「日本人の良さ」を維持する幼児教育の実践例について協議する。＜準備学習＞「日本人の良さ」を維持する実践例を調べておく。
11	個人研究	「日本人の良さ」を維持する教育委員会の取り組みについて協議する。＜準備学習＞教育委員会の取り組みを調べておく。
12	グループ協議	個人研究の進捗状況の情報交換、グループのテーマに沿って、個人研究課題を再検討する。(グループワーク)＜準備学習＞個人研究の内容をまとめておく。
13	個人論文の作成(1)	個人論文の構成検討＜準備学習＞これまでの研究の資料を整理しておく。
14	研究計画の再確認	個人論文、グループ論文、グループ論文抄録、ポスター作成までの日程、手順等の確認＜準備学習＞個人研究の内容をまとめておく。
15	個人論文の作成(2)	個人論文 「はじめに」「方法」の下書き＜準備学習＞個人研究の資料を整理しておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	高橋 淳一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

心理学(特に児童心理学領域)に関するテーマを定め、研究を進めていく。教員の指導のもと、調査、分析を行い、その結果をまとめて個人論文を作成する。そのうえで、近い研究テーマの学生でグループを作り、それぞれの研究を持ち寄ってグループ論文を作成する。グループ論文は卒業研究発表会にて発表する。

《テキスト》

授業中に適宜指示する

《参考図書》

授業中に適宜指示する

《授業の到達目標》

専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。

研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。

問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

自らのテーマを追求するため、授業時間外にも主体的に探究活動にあたること。研究を進めるにあたって合計15時間の授業時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

研究論文の内容および研究への取り組みによって100%の評価をし、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究を進めるにあたって、必要な課題は授業時間内外で個別にフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	科学的な研究とは	研究とは何か、論文とはなにかを理解する。(時間外)[予習]抄録を読む[復習]課題プリント
2	文献検索法	CiNiiや参考文献リストを使った文献の検索方法を身につける。(時間外)[予習]配布プリントを読む[復習]文献を検索しプリントアウトする
3	研究の個人テーマについて	自らの研究テーマの大枠を設定する。(時間外)[予習]配布プリントを読む[復習]課題プリント
4	論文の読み方	研究論文の構成を理解し、読み進めることができるようになる。(時間外)[予習]配布プリントを読む[復習]課題プリント
5	文献の検索	自らの研究テーマに沿ったキーワードから文献を検索する。(時間外)[予習]配布プリントを読む[復習]課題プリント
6	論文の要約	検索した論文を読み、内容を要約して理解を進める。(時間外)[予習]配布プリントを読む[復習]論文の要約
7	論文の検索と要約	検索した論文からさらに先行研究を検索し、内容を要約する。(時間外)[予習]配布プリントを読む[復習]論文の要約
8	個人テーマの絞り込み	検索した先行研究を参考に、個人の研究テーマを絞り込む。(時間外)[予習]配布プリントを読む[復習]課題プリント
9	グループ論文のテーマ決め	個人の研究テーマを参考に、グループ論文のテーマを決定する。(時間外)[予習]配布プリントを読む[復習]課題プリント
10	個人テーマに沿った先行研究の検索	決定した個人の研究テーマに沿った先行研究を検索する。(時間外)[予習]配布プリントを読む[復習]論文を読む
11	個人テーマに沿った先行研究の要約	検索した先行研究を要約し、内容を理解する。(時間外)[予習]配布プリントを読む[復習]論文の要約
12	個人テーマの研究法の決定	先行研究を参考に、どのように研究を進めるか決定する。(時間外)[予習]先行研究を再確認する[復習]課題プリント
13	データ収集の準備	先行研究を参考に、データ収集の方法を決定し質問紙を作成する。(時間外)[予習]先行研究を確認する[復習]課題プリント
14	データ収集の準備	質問紙の作成および配布方法の検討と依頼を行う。(時間外)[予習]先行研究を確認する[復習]課題プリント
15	データの取り扱いについて	プライバシーの保護などデータの取り扱いに対する研究倫理を理解する。(時間外)[予習]1年次の研究倫理の授業を復習する[復習]課題プリント

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

本ゼミは、健康・幼児体育に関連する領域から各自がテーマを定めて論文を書いた後、テーマの似た者同士でグループを構成し論文をまとめる。論文作成を通し、研究方法や論文の構成等について学ぶ。個人及びグループの研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文とグループ論文及びグループ論文の抄録を作成し発表する。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
 研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
 問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、研究テーマへの理解度20%、ゼミナールへの参加意欲20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の時間外学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文概要	卒業研究の取り組み方 卒業論文の構成 卒業研究・卒業論文作成の倫理 [準備学習] 令和5年度卒業研究・特別研究論文抄録集を読む
2	卒業研究個人研究課題の設定(1)	卒業研究個人研究課題候補の提示とディスカッション [準備学習] 興味のあるテーマを考える
3	卒業研究個人研究課題の設定(2)	卒業研究個人研究課題の提示とディスカッション [準備学習] 興味あるテーマについて先行研究を調べる
4	卒業研究個人研究課題の設定(3)	卒業研究個人研究課題の提示とディスカッション [準備学習] 興味あるテーマについて先行研究を調べる
5	卒業研究個人研究の研究手法の検討(1)	卒業研究個人研究テーマに関する研究方法を検討する [準備学習] テーマに関する先行研究から研究方法を調べる
6	卒業研究個人研究の研究手法の検討(2)	卒業研究個人研究テーマ、研究方法を決定し、研究計画を立てる [準備学習] テーマに関する先行研究から研究方法を調べる
7	個人研究の調査・研究準備(1)	各自の計画にそって、調査・研究を進める [準備学習] テーマに関する先行研究を調べる
8	個人研究の調査・研究準備(2)	各自の計画にそって、調査・研究を進める [準備学習] テーマに関する先行研究を調べる
9	個人研究の調査・研究活動(3)	各自の計画にそって、調査・研究を進める [準備学習] テーマに関する先行研究を調べる
10	グループ論文の準備(1)	グループ論文に向けて、グルーピングと個人研究の進捗状況の把握(プレゼンテーション) [準備学習] プレゼンテーションに向けて、個人研究の進捗状況をまとめる
11	個人研究の調査・研究活動(4)	各自の計画にそって、調査・研究を進める [準備学習] グループ論文を意識し、研究計画を見直す
12	個人研究の調査・研究活動(5)	個人論文「はじめに」を書く [準備学習] テーマに関する先行研究をまとめる
13	個人研究の調査・研究活動(6)	個人論文「はじめに」と「研究方法」を書く [準備学習] テーマに関する先行研究をまとめる
14	グループ論文の準備(2)	グループ論文の枠組みを考える [準備学習] 個人研究の調査で得た知見を文章でまとめる
15	ゼミ全体としての情報共有	調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況報告(グループワーク、発表学修) [準備学習] 発表に向けて、グループ研究の枠組みをまとめる

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

特別支援保育に関連する内容について各々がテーマを決め、個人論文を書く。テーマが共通するメンバーでグループを構成し、研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文およびグループ発表の抄録や掲示資料を作成し、発表の準備を行う。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。

《授業の到達目標》

教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
 研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
 問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文概要	卒業研究の取り組み方 卒業論文の構成 卒業研究・卒業論文作成の倫理 <準備学習> 昨年度の「プレゼミ」の学修内容を振り返っておく。
2	ゼミのテーマ理解と先行文献の調べ方	特別支援保育ゼミの共通テーマを知り、先行文献の調べ方を学ぶ <準備学習> 「CiNii」「卒論抄録」など、情報収集の方法について確認しておく。
3	卒業研究個人研究課題の設定とグループの決定	卒業研究個人研究課題の選定 研究グループの決定 <準備学習> 複数の個人研究のテーマ案について、ゼミ内で情報共有しておく。
4	先行文献の調査	卒業研究個人研究課題に沿った研究方法の検討(グループワーク) <準備学習> 個人研究テーマに沿った文献を調べる
5	先行文献のまとめ方	卒業研究グループ研究課題の設定と研究方法の検討及びディスカッション(グループワーク) <準備学習> 個人研究とSDGsの目標との関係を見直しておく。
6	研究方法と研究計画	個人研究・グループ研究について、研究方法に関するディスカッション(グループワーク) <準備学習> 昨年度の「プレゼミ」で調べた情報を整理しておく。
7	研究計画と研究依頼について	個人研究・グループ研究について、研究計画の作成 <準備学習> 前回のグループ協議の内容を整理しておく。
8	調査準備のための情報収集	アンケート用紙などの構成と作成 <準備学習> 情報収集すべき事柄をリストアップしておく。
9	調査資料の作成	研究資料の収集 実験などの準備 アンケート用紙などの構成と作成 <準備学習> 情報収集すべき事柄をリストアップしておく。
10	調査の実施	実験・調査・アンケート等の実施<準備学習> 研究テーマとSDGsの目標との関係を見直し、必要な情報が収集できるよう整理しておく。
11	調査結果の収集	実験・調査・アンケート等の実施 <準備学習> 授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
12	調査・研究データの分析準備	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析の準備 <準備学習> 授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
13	調査・研究結果の入力	実験・調査・アンケート等の集計、結果の入力 <準備学習> これまでに収集した情報を整理し、研究テーマとの関係を考えておく。
14	調査・研究データの解析	実験・調査・アンケート等の解析<準備学習> ゼミの中で情報交換を進め、自分の研究にも活用できる情報があれば、改めて情報収集しておく。
15	ゼミ全体としての情報共有	1, 2年合同: 調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況報告 <準備学習> 収集した情報や解析結果を簡潔に整理し、情報共有に備える。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

各々がテーマを設定し、テーマに沿ったグループを構成して論文を書く。調査・分析や論文作成の方法等については適宜助言・指導を行う。個人およびグループの研究課題に対して、解決に向けた情報収集・分析・議論を行う。その結果を踏まえて個人論文とグループ論文およびグループ論文の抄録を作成し、発表に備える。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
 研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
 問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文とは	卒業研究の取り組み方、研究倫理、論文の構成について <準備学習> 昨年度の「プレゼミ」の学修内容を振り返っておく。
2	個人研究課題の検討	個人研究課題の候補の提示とディスカッション <準備学習> プレゼミにおいて研究テーマを決定したプロセスを振り返っておく。
3	個人研究課題の設定	個人研究課題の選定、研究グループ構成の検討準備 <準備学習> 複数の個人研究のテーマ案について、ゼミ内で情報共有しておく。
4	グループ構成の検討	個人研究課題に沿ったグループ構成の検討、研究方法の検討(グループワーク) <準備学習> 個人研究テーマを踏まえてグルーピングの案を考えておく。
5	グループ構成の決定	グループ研究課題の設定と研究方法の検討およびディスカッション <準備学習> 個人研究とSDGsの目標との関係を見直しておく。
6	研究方法の検討	個人研究・グループ研究について、研究方法を検討する(グループワーク) <準備学習> 昨年度の「プレゼミ」における研究方法について情報を集めておく。
7	研究計画の検討	個人研究・グループ研究について、研究計画を作成する <準備学習> 前回のディスカッションの内容を整理しておく。
8	調査・研究準備	研究資料の収集、研究準備、アンケート内容などの検討 <準備学習> 「CiNii」「卒論抄録」など、情報収集の方法について確認しておく。
9	調査・研究準備	研究資料の収集、アンケート用紙などの作成 <準備学習> 情報収集すべき事柄をリストアップしておく。
10	調査・研究活動	調査・アンケート等の実施 <準備学習> 研究テーマとSDGsの目標との関係を見直しておく。
11	調査・研究活動	調査・アンケート等の実施 <準備学習> 授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
12	調査・研究活動	調査・アンケート等の集計、結果分析の準備 <準備学習> 授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
13	調査・研究活動	調査・アンケート等の集計、結果分析 <準備学習> これまでに収集した情報を整理し、研究テーマとの関係を考えておく。
14	調査・研究データの解析	調査・アンケート等の解析 <準備学習> ゼミの中で情報交換を進め、自分の研究にも活用できる情報があれば、改めて情報収集しておく。
15	ゼミ全体としての情報共有	調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況報告(グループワーク、発表) <準備学習> 収集した情報や解析結果を簡潔に整理し、情報共有に備える。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、授業中に適宜指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

各々がテーマを定め、テーマに沿ったグループを構成して論文を書く。各ゼミの指導教員が調査や研究方法、論文の内容等について指導を行う。個人及びグループの研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文とグループ論文及びグループ論文の抄録を作成し、発表に備える。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
 研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
 問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、授業中に指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文概要	卒業研究の取り組み方 卒業論文の構成 卒業研究・卒業論文作成の倫理 <準備学習> 昨年度の「プレゼミ」の学修内容を振り返っておく。
2	卒業研究個人研究課題の検討	卒業研究個人研究課題候補の提示とディスカッション<準備学習> 「プレゼミ」において研究テーマを決定したプロセスを振り返っておく。
3	卒業研究個人研究課題の設定	卒業研究個人研究課題の選定、研究グループ構成の検討準備<準備学習> 複数の個人研究のテーマ案について、ゼミ内で情報共有しておく。
4	卒業研究グループ構成の検討	卒業研究個人研究課題に沿ったグループ構成の検討、研究方法の検討(グループワーク) <準備学習> 個人研究テーマを踏まえてグルーピングの案を考えておく。
5	卒業研究グループ構成の決定	卒業研究グループ研究課題の設定と研究方法の検討及びディスカッション(グループワーク) <準備学習> 個人研究とSDGsの目標との関係を見直しておく。
6	卒業研究方法の検討	個人研究・グループ研究について、研究方法に関するディスカッション(グループワーク) <準備学習> 昨年度の「プレゼミ」における研究方法について情報を集めておく。
7	研究計画の検討	個人研究・グループ研究について、研究計画の作成<準備学習> 前回のグループ協議の内容を整理しておく。
8	調査・研究準備(1)	研究資料の収集 研究準備 アンケート内容などの検討<準備学習> 「CiNii」「卒論抄録」など、情報収集の方法について確認しておく。
9	調査・研究準備(2)	研究資料の収集 実験などの準備 アンケート用紙などの構成と作成<準備学習> 情報収集すべき事柄をリストアップしておく。
10	調査・研究活動(1)	実験・調査・アンケート等の実施<準備学習> 研究テーマとSDGsの目標との関係を見直し、必要な情報が収集できるよう整理しておく。
11	調査・研究活動(2)	実験・調査・アンケート等の実施<準備学習> 授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
12	調査・研究活動(3)	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析の準備<準備学習> 授業中に調べきれなかった情報について、情報を収集しておく。
13	調査・研究活動(4)	実験・調査・アンケート等の集計、結果分析<準備学習> これまでに収集した情報を整理し、研究テーマとの関係を考えておく。
14	調査・研究データの解析	実験・調査・アンケート等の解析<準備学習> ゼミの中で情報交換を進め、自分の研究にも活用できる情報があれば、改めて情報収集しておく。
15	ゼミ全体としての情報共有	調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況報告(グループワーク、発表学修)<準備学習> 収集した情報や解析結果を簡潔に整理し、情報共有に備える。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	越智 光輝				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

多くの幼稚園や保育園では、「表現発表会」という年中行事がある。この表現発表会では主にオペレッタ、リズム劇や遊戯などが行われ、クラス担任が指導・援助しているケースが多い。そこで、本授業では演目の選択、歌や踊り、台詞の練習、衣装や舞台装置の製作など、グループワークを通じて総合的にオペレッタを学び、その学修成果を本学の文化祭（五峯祭）や学外施設で披露する。

《授業の到達目標》

オペレッタに関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような演じ方や歌い方を修得し、実践できる。子どもが演じることを念頭に置き、表現領域に関する指導・援助の留意点について説明できる。担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容、練習や発表に取り組む意欲や態度を踏まえ、卒業研究ルーブリック表に基づき評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総合表現活動としてのオペレッタ	過去の作品のビデオを觀賞し、オペレッタの演目、配役、台本を決定〔授業時間外学習〕決定した演目の台本について加筆や修正事項をまとめておく。（復習1時間）
2	オペレッタの演出	音楽の効果的活用法、身体表現、舞台効果、台本作成〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。（予習・復習1時間）
3	オリジナル台本の作成（全体構成）	曲付け、効果音、舞台装置のデザイン〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。（予習・復習1時間）
4	オリジナル台本の作成（分野別）	曲付け、振付け、効果音、衣装のデザイン〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。（予習・復習1時間）
5	身体活動の基礎	姿勢の変化による、身体の各部の動きへの影響について〔準備学習〕授業内での取り組みについて実施し、記録する。（予習1時間）
6	身体活動の応用	姿勢の状況に応じた、最善の取り組みについて〔準備学習〕授業内での取り組みについて実施し、記録する。（予習1時間）
7	上演作品に関する音楽表現（基礎）	演奏や歌唱の練習（留意点の確認）〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。（予習・復習1時間）
8	上演作品に関する音楽表現（応用）	演奏や歌唱の練習（留意点の改善）〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
9	通し稽古（全体構成の把握）	通し稽古による全体構成の確認〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。（予習・復習1時間）
10	通し稽古（部分稽古）	場面ごとの部分練習（立ち位置や幕の開閉、音出しのタイミング）〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。（予習・復習1時間）
11	通し稽古（全体構成の再確認）	初回の通し稽古や部分稽古の課題を踏まえ全体構成の再確認〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。（予習・復習1時間）
12	通し稽古（作品の質向上）	第9～11回の舞台稽古の修正点を抽出し、作品の質を高める。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。（予習・復習1時間）
13	作品小発表会の準備・全体構成の確認	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと。（予習・復習1時間）
14	小発表会のためのリハーサル（プレ本番）	舞台設置、通し稽古、映像によるフィードバック〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと。（予習・復習1時間）
15	作品小発表会	前期の学習内容のまとめとして、ゼミ内で小発表会を行う。〔授業時間外学習〕自他のパフォーマンスを振り返り、課題レポートにまとめる。（復習1時間）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	清水 誠				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

学習科学研究の研究領域から各々がテーマを定め、テーマに沿ったグループを構成して論文をまとめる。個人及びグループの研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文とグループ論文及びグループ論文の抄録を作成し、発表に備える。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。

《授業の到達目標》

- ・教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ・研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ・問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をする。

《成績評価の方法》

研究レポート60%、卒業研究ルーブリック表に示された判定基準24%、学習履歴への記述内容16%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

学習履歴表等を用い、研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜支援を行い、それらの内容はゼミ内で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究・卒業論文の概要	卒業研究の取り組み方 卒業論文の構成 卒業研究・卒業論文作成の倫理 [準備学習]図書館において卒業生の卒業研究論文に目を通してくる。
2	卒業研究個人研究テーマの検討	SDGsの課題を踏まえ、個人研究課題候補の提示とディスカッション [準備学習]取り組みたい自身の研究課題とその動機を考えてくる。
3	卒業研究個人研究テーマの設定	個人研究テーマの設定とSDGsの課題との関係を考える。 [準備学習]個人研究テーマとSDGsの課題との関係を整理してくる。
4	卒業研究グループ構成の検討	個人研究課題に沿ったグループ構成の検討、研究の検討(グループワーク) [準備学習]SDGsの課題から、個々の研究課題との関係を考えてくる。
5	卒業研究グループ構成の決定	卒業研究グループ研究課題の設定と研究方法の検討(グループワーク) [準備学習]個々の研究課題をまとめ、グループとしての課題に整理してみる。
6	研究方法の検討	個人及びグループの研究の方法について討議(グループワーク) [準備学習]個人研究の方法について検討してくる。
7	研究計画の検討	個人及びグループの研究について、研究計画の作成 [準備学習]個人の研究をどのように進めていくか検討してくる。
8	調査・研究準備(1)	研究資料収集のための調査計画(質問紙調査)などの検討 [準備学習]個人研究の調査資料について検討してくる。
9	調査・研究準備(2)	研究資料収集のための調査計画(質問紙調査)などの検討 [準備学習]個人研究の調査資料について再吟味してくる。
10	調査・研究活動(1)	研究調査の場所の確認、依頼文書等の作成 [準備学習]研究調査のための依頼文書(案)を作成してくる。
11	調査・研究活動(2)	質問紙調査等の実施 [準備学習]質問者調査を実施する被験者へのお願い事項を整理してくる。
12	調査・研究活動(3)	質問紙調査等の集計、データの処理 [準備学習]収集した調査結果を整理してくる。
13	調査・研究活動(4)	質問紙調査等の集計、集計結果の分析 [準備学習]集計したデータの分析をしてくる。
14	調査・研究データの解析	集計結果等の解析と討議(グループワーク) [準備学習]集計したデータから読み取れる内容について検討してくる。
15	ゼミ全体としての情報共有	調査・研究活動に関するグループごとの進捗状況報告(グループワーク、発表学修) [準備学習]個々が収集・分析した情報からグループとしていえることを検討してくる。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	中平 浩介				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

指導教員の指導の下、研究テーマに沿って個人、グループの研究を進め、論文の完成に向けた追加資料の収集・分析、グループ内の討議を深める。個人論文とグループ論文及びグループ論文の抄録を完成させ、ポスター資料を作成して、ポスターセッションによって研究成果を発表し合う。優秀なグループ論文は、プレゼンテーションを行い、学科内で研究成果を共有する。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
 研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
 問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究計画の再確認	個人論文、グループ論文、グループ論文抄録、ポスター作成までの日程、手順等の確認 ＜準備学習＞前期までに収集、分析した情報を振り返り整理しておく。
2	個人論文の作成(1)	個人論文の構成検討＜準備学習＞個人論文の書式や項目を確認しておく。
3	個人論文の作成(2)	個人論文 「はじめに」「方法」の下書き＜準備学習＞自分の研究とSDGsとの関係について見直し、「はじめに」の下書きに備える。
4	個人論文の作成(3)	個人論文 「結果」「考察」「おわりに」の下書き＜準備学習＞「結果」「考察」「おわりに」に書くべき内容を整理し準備しておく。
5	グループ論文の作成(1)	グループ論文 執筆分担確認 「考察」の内容の検討(グループワーク)＜準備学習＞個人論文を完成させ、個人論文の内容についてグループ内で情報を共有しておく。
6	グループ論文の作成(2)	グループ論文 執筆分担に沿った下書き(グループワーク)＜準備学習＞自分の分担について、グループ員の個人論文の内容を確認しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。(ゼミ・ゼミ 合同)＜準備学習＞昨年までの五峯祭の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 ＜準備学習＞取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 ＜準備学習＞どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	「情報リテラシーゼミ」としての五峯祭当日の取組＜準備学習＞五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ論文の作成(3)	グループ論文 「結果」の調整と全体のまとめ(グループワーク)＜準備学習＞五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
12	抄録作成	抄録内容の検討および作成、電子データとりまとめ(グループワーク)＜準備学習＞図書館でグループ論文抄録を複数編読んでイメージを作っておく。
13	ポスターの作成	ポスターセッションの発表方法確認、グループ論文内容の集約とポスター内容の検討(グループワーク)＜準備学習＞パワーポイントの操作方法を確認しておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う。(ゼミ・ゼミ 合同)＜準備学習＞発表のための資料をA4サイズの用紙1枚にまとめておく。
15	卒業研究発表会準備	グループごとに卒業研究発表会の練習、ゼミ全体のリハーサルを通して、研究成果のよりよい発表を目指す＜準備学習＞ポスターを完成させておく。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	古木 竜太				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

多くの幼稚園や保育園では、「表現発表会」という年中行事がある。この表現発表会では主にオペレッタ、リズム劇や遊戯などが行われ、クラス担任が指導・援助しているケースが多い。そこで、本授業では、歌や踊り、台詞の練習、衣装や舞台装置の製作など、グループワークを通じて総合的にオペレッタを学び、その学修成果を本学の文化祭（五峯祭）や学外施設で披露する。

《授業の到達目標》

オペレッタに関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような演じ方や歌い方を修得し、実践できる。子どもが演じることを念頭に置き、表現領域に関する指導・援助の留意点について説明できる。担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、活動記録などの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

『たのしいオペレッタ』音楽之友社
 浅野ななみ『浅野ななみの発表会はお・ま・か・せ 劇あそびとミニオペレッタ CDつき保育選書』ひかりのくに
 本学の「卒業研究抄録集」

《授業時間外学習》

履修者専用のTEAMSを作成し、毎回の授業の活動内容について記述する。パフォーマンスは適宜、動画で撮影してTEAMSに保存する。TEAMSの動画を活用して自らのパフォーマンスについて振り返り、総合表現の質向上を目標として自主練習を行う。

《課題に対するフィードバック等》

履修者専用TEAMSを活用して、指導教員からその都度適宜指導・助言する。助言内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	リハーサル(パート別/部分稽古)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習をパート別に行う。〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
2	リハーサル(パート別/通し稽古)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習をパート別に行う。〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
3	リハーサル(全体/部分)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習を総合的に行う。〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
4	リハーサル(全体/通し稽古)	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習を総合的に行う。〔準備学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと(予習・復習1時間)
5	学外施設での発表(準備・撤収)	舞台設営(装置、照明、音響、客席、袖幕の設置・リハーサル、片づけ)〔準備学習〕外部施設に必要な備品を持ち出す準備および撤収(予習・復習1時間)
6	学外施設での発表(本番)	作品上演(本番)〔準備学習〕リハーサル内容など、本番を想定した通し稽古において得た課題や修正点を改善するよう取り組む(予習1時間)
7	個人論文の作成(活動の振り返り)	個人論文の構成検討〔準備学習〕これまで取り組んできた活動を映像や記録物で振り返り、整理する(復習1時間)
8	作品上演(準備)	舞台および客席の設営、音響の確認など〔準備学習〕リハーサル内容など、本番を想定した通し稽古において得た課題や修正点を改善するよう取り組む(復習1時間)
9	作品上演(リハーサル・本番)	舞台稽古(立ち位置、出入りの確認、音だしの確認、通し稽古、衣装・装置調整など)・本番〔準備学習〕これまでの学習を踏まえた課題や修正点の改善(復習1時間)
10	作品上演(撤収)	舞台および客席、袖幕、装置などの片づけ、〔準備学習〕片づけが円滑に行えるように担当係を決め、作業内容を確認する(予習1時間)
11	個人論文の作成(実施報告の構成)	個人論文の執筆〔準備学習〕整理した活動記録をもとに実施報告として個人論文を執筆する(予習・復習1時間)
12	個人論文の作成(実施報告の執筆)	個人論文の執筆〔準備学習〕整理した活動記録をもとに実施報告として個人論文を執筆する(予習・復習1時間)
13	作品発表に関する成果物の作成	ゼミで取り組んだ表現発表に関する成果物を作成する(動画、画像、展示物など)〔準備学習〕これまで取り組んできた表現発表を振り返り、整理する(復習1時間)
14	ゼミ内研究発表	前次で作成した成果物を用いてスモールグループプレゼンテーションを行う〔準備学習〕各グループの発表内容について講評する(復習1時間)
15	卒業研究発表会準備	グループごとに卒業研究発表会の練習、リハーサルを通して、研究成果のよりよい発表を目指す。〔準備学習〕自他のグループに関する発表内容の振り返り(復習1時間)

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	大野 琴絵				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

多くの幼稚園や保育園では、「表現発表会」という年中行事がある。この表現発表会では主にオペレッタ、リズム劇や遊戯などが行われ、クラス担任が指導・援助しているケースが多い。そこで、本授業では演目の選択、歌や踊り、台詞の練習、衣装や舞台装置の製作など、グループワークを通じて総合的にオペレッタを学び、その学修成果を本学の文化祭（五峯祭）や学外施設で披露する。

《授業の到達目標》

オペレッタに関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような演じ方や歌い方を修得し、実践できる。子どもが演じることを念頭に置き、表現領域に関する指導・援助の留意点について説明できる。担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、練習や発表に取り組む意欲や態度40%を踏まえ、卒業研究ルーブリック表に基づき、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

『たのしいオペレッタ』音楽之友社
 浅野ななみ『浅野ななみの発表会はお・ま・か・せ 劇あそびとミニオペレッタ CDつき保育選書』ひかりのくに
 本学の「卒業研究抄録集」

《授業時間外学習》

履修者専用のTEAMSを作成し、毎回の授業の活動内容について記述する。パフォーマンスは適宜、動画で撮影してTEAMSに保存する。TEAMSの動画を活用して自らのパフォーマンスについて振り返り、総合表現の質向上を目標として自主練習を行う。

《課題に対するフィードバック等》

履修者専用TEAMSを活用して、指導教員からその都度適宜指導・助言する。助言内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	リハーサル（パート別 / 部分稽古）	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習をパート別に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
2	リハーサル（パート別 / 通し稽古）	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習をパート別に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
3	リハーサル（全体 / 部分）	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習を総合的に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
4	リハーサル（全体 / 通し稽古）	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習を総合的に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組むこと（予習・復習1時間）
5	学外施設での発表（準備・撤収）	舞台設営（装置、照明、音響、客席、袖幕の設置・リハーサル、片づけ）〔授業時間外学習〕外部施設に必要な備品を持ち出す準備および撤収（予習・復習1時間）
6	学外施設での発表（本番）	作品上演（本番）〔授業時間外学習〕リハーサル内容など、本番を想定した通し稽古において得た課題や修正点を改善するよう取り組む（予習1時間）
7	個人論文の作成（活動の振り返り）	個人論文の構成検討〔授業時間外学習〕これまで取り組んできた活動を映像や記録物で振り返り、整理する（復習1時間）
8	作品上演のための準備および本番	舞台設営（装置、照明、音響、客席、袖幕の設置・片づけ）（予習1時間）
9	作品上演のための準備および本番	舞台稽古（立ち位置、出入りの確認、音だしの確認、通し稽古、衣装・装置調整など）ポスター作成、当日のPR活動各種（予習1時間）
10	作品上演のための準備および本番	作品上演（本番）〔授業時間外学習〕リハーサル内容など、本番を想定した通し稽古において得た課題や修正点を改善するよう取り組む（予習1時間）
11	個人論文の作成（実施報告の構成）	個人論文の執筆〔授業時間外学習〕整理した活動記録をもとに実施報告として個人論文を執筆する（予習・復習1時間）
12	個人論文の作成（実施報告の執筆）	個人論文の執筆〔授業時間外学習〕整理した活動記録をもとに実施報告として個人論文を執筆する（予習・復習1時間）
13	作品発表に関する成果物の作成	ゼミで取り組んだ表現発表に関する成果物を作成する（動画、画像、展示物など）〔授業時間外学習〕これまで取り組んできた表現発表を振り返り、整理する（復習1時間）
14	ゼミ内研究発表	前次で作成した成果物を用いてスモールグループプレゼンテーションを行う〔授業時間外学習〕各グループの発表内容について講評する（復習1時間）
15	卒業研究発表会準備	卒業研究発表会の練習、ゼミ全体のリハーサルを通して、研究成果のよりよい発表を目指す。〔授業時間外学習〕自他のグループに関する発表内容の振り返り（復習1時間）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	中村 敏男				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

指導教員の指導の下、研究テーマに沿って個人、グループの研究を進め、論文の完成に向けた追加資料の収集・分析、グループ内の討議を深める。個人論文とグループ論文及びグループ論文の抄録を完成させ、ポスター資料を作成して、ポスターセッションによって研究成果を発表し合う。優秀なグループ論文は、プレゼンテーションを行い、学科内で研究成果を共有する。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
本学の「研究紀要」ほか、指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究計画の再確認	個人論文、グループ論文、グループ論文抄録、ポスター作成までの日程、手順等の確認 <準備学習> 前期までに収集、分析した情報を振り返り整理しておく。
2	個人論文の作成(1)	個人論文の構成検討<準備学習>個人論文の書式や項目を確認しておく。
3	個人論文の作成(2)	個人論文 「はじめに」「方法」の下書き<準備学習>自分の研究とSDGsとの関係について見直し、「はじめに」の下書きに備える。
4	個人論文の作成(3)	個人論文 「結果」「考察」「おわりに」の下書き<準備学習>「結果」「考察」「おわりに」に書くべき内容を整理し準備しておく。
5	グループ論文の作成(1)	グループ論文 執筆分担確認 「考察」の内容の検討(グループワーク)<準備学習>個人論文を完成させ、個人論文の内容についてグループ内で情報を共有しておく。
6	グループ論文の作成(2)	グループ論文 執筆分担に沿った下書き(グループワーク)<準備学習>自分の分担について、グループ員の個人論文の内容を確認しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	「教育ゼミ」としての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。(ゼミ・ゼミ 合同)<準備学習>昨年までの五峯祭の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備	「教育ゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 <準備学習>取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備	「教育ゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 <準備学習>どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	「教育ゼミ」としての五峯祭当日の取組<準備学習>五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ論文の作成(3)	グループ論文 「結果」の調整と全体のまとめ(グループワーク)<準備学習>五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
12	抄録作成	抄録内容の検討および作成、電子データとりまとめ(グループワーク)<準備学習>と所管でグループ論文抄録を複数編読んでイメージを作っておく。
13	ポスターの作成	ポスターセッションの発表方法確認、グループ論文内容の集約とポスター内容の検討(グループワーク)<準備学習>パワーポイントの操作方法を確認しておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う。(ゼミ・ゼミ 合同)<準備学習>発表のための資料をA4サイズの用紙1枚にまとめておく。
15	卒業研究発表会準備	グループごとに卒業研究発表会の練習、ゼミ全体のリハーサルを通して、研究成果のよりよい発表を目指す<準備学習>ポスターを完成させておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	武内 道郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

各ゼミとも指導教員の指導の下、研究テーマに沿って個人、グループの研究を進め、論文の完成に向けた追加資料の収集・分析、グループ内の討議を深める。個人論文とグループ論文及びグループ論文の抄録を完成させ、ポスター資料を作成して、ポスターセッションによって研究成果を発表し合う。優秀なグループ論文は、プレゼンテーションを行い、学科内で研究成果を共有する。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
 研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
 問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	個人論文の作成(3)	個人論文 「方法」の下書き<準備学習>個人研究の資料を整理しておく。
2	個人論文の作成(4)	個人論文 「結果」の下書き<準備学習>個人研究の資料を整理しておく。
3	個人論文の作成(5)	個人論文 「考察」「おわりに」の下書き<準備学習>個人研究の資料を整理しておく。
4	グループ論文の作成(1)	グループ論文 執筆分担確認 「考察」の内容の検討(グループワーク)<準備学習>個人研究の資料を整理しておく。
5	グループ論文の作成(2)	グループ論文 執筆分担に沿った下書き(グループワーク)<準備学習>個人研究の資料を整理しておく。
6	五峯祭の取組内容の検討	「幼児教育ゼミ」としての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。(ゼミ・ゼミ合同)<準備学習>昨年までの五峯祭の取組を確認しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	「幼児教育ゼミ」としての五峯祭の取組について、分担に沿って準備をする。(ゼミ・ゼミ合同)<準備学習>準備に必要なことを考えておく。
8	五峯祭準備	「幼児教育ゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 <準備学習>取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備	「幼児教育ゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 <準備学習>どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	「幼児教育ゼミ」としての五峯祭当日の取組<準備学習>五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ論文の作成(3)	グループ論文 「結果」の調整と全体のまとめ(グループワーク)<準備学習>必要な資料を準備しておく。
12	抄録作成	抄録内容の検討および作成、電子データとりまとめ(グループワーク)<準備学習>必要な資料を準備しておく。
13	ポスターの作成	ポスターセッションの発表方法確認、グループ論文内容の集約とポスター内容の検討(グループワーク)<準備学習>必要な資料を準備しておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う。(ゼミ・ゼミ合同)<準備学習>発表原稿の準備。
15	卒業研究発表会準備	グループごとに卒業研究発表会の練習、ゼミ全体のリハーサルを通して、研究成果のよりよい発表を目指す<準備学習>ポスターを完成させておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	高橋 淳一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-2 知識・技能 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

心理学(特に児童心理学領域)に関するテーマを定め、研究を進めていく。教員の指導のもと、調査、分析を行い、その結果をまとめて個人論文を作成する。そのうえで、近い研究テーマの学生でグループを作り、それぞれの研究を持ち寄ってグループ論文を作成する。グループ論文は卒業研究発表会にて発表する。

《テキスト》

授業中に適宜指示する

《参考図書》

授業中に適宜指示する

《授業の到達目標》

専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。

研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。

問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

自らのテーマを追求するため、授業時間外にも主体的に探究活動にあたること。研究を進めるにあたって合計15時間の授業時間外学習が必要である。

《成績評価の方法》

研究論文の内容および研究への取り組みによって100%の評価をし、60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究を進めるにあたって、必要な課題は授業時間内外で個別にフィードバックを行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	個人論文の作成	データの収集を行う。(時間外)[予習]先行研究を確認する[復習]課題プリント
2	個人論文の作成	収集したデータを、分析できるよう加工する。(時間外)[予習]Excelの扱い方を復習する[復習]課題プリント
3	個人論文の作成	加工したデータに対して統計分析を行う。(時間外)[予習]統計分析について復習する[復習]課題プリント
4	個人論文の作成	統計分析の結果を読み取る。(時間外)[予習]統計分析について復習する[復習]課題プリント
5	個人論文の作成	要約した先行研究をもとに、「問題」を執筆する。(時間外)[予習]先行研究を確認する[復習]執筆内容を確認する
6	個人論文の作成	要約した先行研究をもとに、「問題」「目的」「方法」を執筆する。(時間外)[予習]先行研究を確認する[復習]執筆内容を確認する
7	個人論文の作成	統計分析の結果から、「結果」を執筆する。(時間外)[予習]分析結果を確認する[復習]執筆内容を確認する
8	個人論文の作成	先行研究と結果をもとに、「考察」を執筆する。(時間外)[予習]先行研究と結果を確認する[復習]執筆内容を確認する
9	個人論文の作成	先行研究と結果をもとに、「考察」を執筆する。(時間外)[予習]先行研究と結果を確認する[復習]執筆内容を確認する
10	個人論文の作成	執筆した論文を確認・推敲する。(時間外)[予習]執筆内容を確認する[復習]推敲箇所を確認する
11	個人論文の作成	執筆した論文を確認・推敲し、提出の準備をする。(時間外)[予習]執筆内容を確認する[復習]推敲箇所を確認する
12	グループ論文の作成	近似の研究テーマグループでグループ論文を作成する。(時間外)[予習]個人論文を確認する[復習]グループ論文を確認する
13	グループ論文の作成	近似の研究テーマグループでグループ論文を作成する。(時間外)[予習]個人論文を確認する[復習]グループ論文を確認する
14	グループ論文の作成	グループ論文の発表準備をする。(時間外)[予習]PowerPointの取り扱いを復習する[復習]発表の準備をする
15	まとめ	これまでの研究の振り返りをする。(時間外)[予習]個人論文・グループ論文を確認する[復習]課題プリント

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

本ゼミは、健康・幼児体育に関連する領域から各自がテーマを定めて論文を書いた後、テーマの似た者同士でグループを構成し、論文をまとめる。論文作成を通し、研究方法や論文の構成等について学ぶ。個人及びグループの研究課題に対して、解決に向けた情報収集、分析、討議を行う。その結果を踏まえて個人論文とグループ論文及びグループ論文の抄録を作成し発表する。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
 研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
 問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、研究テーマへの理解度20%、ゼミナールへの参加意欲20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の時間外学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究計画の再確認	個人論文、グループ論文、グループ論文抄録、ポスター作成までの日程、手順等の確認 [準備学習] 前期および夏季休暇中の進捗状況をまとめる
2	個人論文の作成(1)	個人論文の構成検討 [準備学習] 収集した資料を整理する
3	個人論文の作成(2)	個人論文 「結果」の構成を考える [事後学習] 結果を書く
4	個人論文の作成(3)	個人論文 「考察」を考える [事後学習] 考察を書く
5	個人論文の作成(4)	個人論文 「まとめ」を考える [事後学習] まとめを書く
6	グループ論文の作成(1)	グループ論文の枠組みの再構成と執筆分担を行う(グループワーク) [準備学習] 個人論文を要約する
7	グループ論文の作成(2)	グループ論文の「考察」「まとめ」を考える (グループワーク) [事後学習] 執筆分担にそって書き進める
8	五峯祭の準備(1)	コーナー遊びの準備をする [事前学習] コーナー遊びに必要なものを準備する
9	五峯祭の準備(2)	コーナー遊びの準備をする [事前学習] コーナー遊びに必要なものを準備する
10	五峯祭	来場者の活動を援助する [事後学習] 五峯祭での活動を振り返り、学びをまとめる
11	抄録作成	抄録内容の検討および作成、電子データとりまとめ(グループワーク) [事後学習] 抄録を完成させる
12	研究成果の発表	グループごとに研究結果の発表、相互評価(グループワーク、発表学修)個人論文、グループ論文、グループ論文抄録の提出準備 [事後学習] 提出物を修正する
13	ポスターの作成(1)	ポスターセッションの発表方法確認、グループ論文内容の集約とポスター内容の検討(グループワーク) [準備学習] 抄録とグループ論文を読み込む
14	ポスターの作成(2)	ポスター作成、電子データとりまとめ、提出の準備(グループワーク) [準備学習] ポスターを完成させる
15	卒業研究発表会準備	より良い発表を目指し、グループごとに卒業研究発表会の練習とゼミ全体のリハーサルを行う(グループワークと全体学修) [事後学習] 発表に向けて最終調整をする

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	東 敦子				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

個々の研究テーマに沿って個人論文の執筆をすすめる。グループ発表に向けた追加資料の収集・分析を行い、グループ内の討議を深める。個人論文とグループ発表の抄録および掲示資料を作成し、ポスター発表をおこなう。特別支援保育についての社会的な課題を考察し、実践とのつながりを踏まえ、論理的にまとめていく。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。"

《授業の到達目標》

教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
 研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
 問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	個人論文の構成検討	個人論文の構成検討<準備学習>個人論文の書式や項目を確認しておく。
2	方法のまとめ方	個人論文 「はじめに」「方法」の下書き<準備学習>自分の研究とSDGsとの関係について見直し、「はじめに」の下書きに備える。
3	結果のまとめ方	個人論文の「結果」を作成する。 <準備学習>「結果」に書くべき内容を整理し準備しておく。
4	考察のまとめ方	個人論文の「考察」「おわりに」を作成する。 <準備学習>個人論文の考察の下書きをしておく。
5	個人論文の作成	文献などをを含め、書式に沿って個人論文を完成させる。 <準備学習>個人論文の下書きを完成させる
6	グループ研究のまとめ	個人論文をグループでまとめてパワーポイントを作成する<準備学習>グループの個人論文の内容を確認しておく。
7	グループ発表の役割分担についての検討	1、2年合同「特別支援保育ゼミ」としての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。<準備学習>五峯祭で展示する内容を整理しておく。
8	研究成果物の作成 (五峯祭準備1日目)	「特別支援保育ゼミ」の活動を発表するために必要な成果物を作成する <準備学習>取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	研究成果物の展示 (五峯祭準備2日目)	「特別支援保育ゼミ」の活動を発表するために必要な成果物を展示する。 <準備学習>役割分担について考えておく。
10	研究成果物の公開 (五峯祭当日)	「特別支援保育ゼミ」の活動内容を五峯祭で展示する <準備学習>分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ研究活動の振り返り	グループ活動を抄録にまとめる。<準備学習>五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
12	グループ抄録の作成	抄録内容の検討および作成、電子データとりまとめ(グループワーク)<準備学習>と所管でグループ論文抄録を複数編読んでイメージを作っておく。
13	グループ発表台本の作成	ポスター台本を作成する。方法確認、グループ論文内容の集約とポスター内容の検討(グループワーク)<準備学習>ポスター発表資料を完成させる。
14	ゼミ内研究発表	1、2年合同:グループ研究の成果を共有する <準備学習>パワーポイントの操作方法を確認しておく。
15	卒業研究発表会準備	グループごとに卒業研究発表会のリハーサルをおこない、研究成果のよりよい発表を目指す<準備学習>発表台本を読んでおく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	相田 まり				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

指導教員の指導の下、研究テーマに沿って個人・グループでの研究を進め、論文の完成に向けて追加資料の収集・分析を行い、議論を深める。個人論文とグループ論文およびグループ論文の抄録を完成させ、発表資料を作成し、研究成果を発表し合う。優秀なグループ論文については、学科内で研究成果を共有する。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、授業中に適宜指示する。

《授業の到達目標》

教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
 研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
 問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
 毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究計画の再確認	個人論文、グループ論文、グループ論文抄録、発表資料作成までの日程、手順等の確認。 <準備学習>前期までに収集・分析した情報を振り返り、整理しておく。
2	個人論文の作成	個人論文の構成の検討。 <準備学習>個人論文の書式や項目を確認しておく。
3	個人論文の作成	「はじめに」および「方法」の下書き。 <準備学習>自分の研究とSDGsとの関係について見直し、「はじめに」の下書きに備える。
4	個人論文の作成	「結果」「考察」「おわりに」の下書き。 <準備学習>「結果」「考察」「おわりに」に書くべき内容を整理しておく。
5	グループ論文の作成	執筆分担の確認、「考察」内容の検討(グループワーク)。 <準備学習>個人論文を完成させ、個人論文の内容についてグループ内で情報を共有しておく。
6	グループ論文の作成	執筆分担に沿った下書き(グループワーク)。 <準備学習>自分の分担および、グループのメンバーの個人論文の内容を確認しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	本ゼミとしての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する(1年生ゼミと合同)。 <準備学習>昨年までの五峯祭の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備	五峯祭の取組に向けた準備 <準備学習>取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備	五峯祭の取組に向けた準備 <準備学習>どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	五峯祭当日の取組 <準備学習>五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ論文の作成	「結果」の調整と全体のまとめ(グループワーク)。 <準備学習>五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
12	抄録作成	抄録内容の検討および作成、電子データとりまとめ(グループワーク)。 <準備学習>図書館でグループ論文の抄録を複数読んでイメージをつくっておく。
13	発表資料の作成	発表方法の確認、グループ論文の内容の集約と発表資料の内容の検討(グループワーク)。 <準備学習>パワーポイントの操作方法を確認しておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う。(1年生ゼミと合同) <準備学習>発表資料を仕上げしておく。
15	卒業研究発表会準備	グループごとに卒業研究発表会の練習、ゼミ全体のリハーサルを通して、研究成果のよりよい発表を目指す。 <準備学習>発表資料を完成させておく。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	佐藤 牧子				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

指導教員の指導の下、研究テーマに沿って個人、グループの研究を進め、論文の完成に向けた追加資料の収集・分析、グループ内の討議を深める。個人論文とグループ論文及びグループ論文の抄録を完成させ、ポスター資料を作成して、ポスターセッションによって研究成果を発表し合う。優秀なグループ論文は、プレゼンテーションを行い、学科内で研究成果を共有する。2年間の学びの集大成として取り組む学修である。

《授業の到達目標》

教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容60%、ゼミナールへの参加意欲、研究心、小レポートなどの取組を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究計画の再確認	個人論文、グループ論文、グループ論文抄録、ポスター作成までの日程、手順等の確認 <準備学習> 前期までに収集、分析した情報を振り返り整理しておく。
2	個人論文の作成(1)	個人論文の構成検討<準備学習>個人論文の書式や項目を確認しておく。
3	個人論文の作成(2)	個人論文 「はじめに」「方法」の下書き<準備学習>自分の研究とSDG sとの関係について見直し、「はじめに」の下書きに備える。
4	個人論文の作成(3)	個人論文 「結果」「考察」「おわりに」の下書き<準備学習>「結果」「考察」「おわりに」に書くべき内容を整理し準備しておく。
5	グループ論文の作成(1)	グループ論文 執筆分担確認 「考察」の内容の検討(グループワーク)<準備学習>個人論文を完成させ、個人論文の内容についてグループ内で情報を共有しておく。
6	グループ論文の作成(2)	グループ論文 執筆分担に沿った下書き(グループワーク)<準備学習>自分の分担について、グループ員の個人論文の内容を確認しておく。
7	五峯祭の取組内容の検討	「子ども造形表現ゼミ」としての五峯祭の取組について、内容や役割分担を検討する。(ゼミ・ゼミ 合同)<準備学習> 昨年までの五峯祭の取組を確認しておく。
8	五峯祭準備	「子どもの造形表現ゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 <準備学習> 取組に必要な材料や道具などを確認し準備しておく。
9	五峯祭準備	「子どもの造形表現ゼミ」としての五峯祭の取組に向けた準備 <準備学習> どのような役割が必要になるか、またその役割を分担する人数等を考えておく。
10	五峯祭当日の取組	「子どもの造形表現ゼミ」としての五峯祭当日の取組<準備学習> 五峯祭当日に必要な掲示物等を仕上げ、分担ごとに全体の流れをイメージしておく。
11	グループ論文の作成(3)	グループ論文 「結果」の調整と全体のまとめ(グループワーク)<準備学習> 五峯祭の取組を振り返り、個人やグループの研究との関係を整理しておく。
12	抄録作成	抄録内容の検討および作成、電子データとりまとめ(グループワーク)<準備学習> と所管でグループ論文抄録を複数編読んでイメージを作っておく。
13	ポスターの作成	ポスターセッションの発表方法確認、グループ論文内容の集約とポスター内容の検討(グループワーク)<準備学習> パワーポイントの操作方法を確認しておく。
14	ゼミ内研究発表	グループ研究の成果を発表し合う。(ゼミ・ゼミ 合同)<準備学習> 発表のための資料をA4サイズの用紙1枚にまとめておく。
15	卒業研究発表会準備	グループごとに卒業研究発表会の練習、ゼミ全体のリハーサルを通して、研究成果のよりよい発表を目指す<準備学習> ポスターを完成させておく。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
本学の「研究紀要」ほか、指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。
毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	越智 光輝				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

多くの幼稚園や保育園では、「表現発表会」という年中行事がある。この表現発表会では主にオペレッタ、リズム劇や遊戯などが行われ、クラス担任が指導・援助しているケースが多い。そこで、本授業では演目の選択、歌や踊り、台詞の練習、衣装や舞台装置の製作など、グループワークを通じて総合的にオペレッタを学び、その学修成果を本学の文化祭（五峯祭）や学外施設で披露する。

《授業の到達目標》

オペレッタに関する総合的な実践的学習を通じて、次の目標達成を目指す。本授業の体験を通じて、子どもの興味を惹くような演じ方や歌い方を修得し、実践できる。子どもが演じることを念頭に置き、表現領域に関する指導・援助の留意点について説明できる。担当している役割に責任をもって取り組み、よりレベルの高いパフォーマンスを目指して仲間と協働できる。

《成績評価の方法》

個人論文の内容、練習や発表に取り組む意欲や態度を踏まえ、卒業研究ルーブリック表に基づき評価し、60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じプリント等を配布する。

《参考図書》

本学の「卒業研究抄録集」
 本学の「研究紀要」ほか、各領域の指導教員が指示する。

《授業時間外学習》

各人が課題を追究するため、授業時間外にも資料収集に努め、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。毎回の授業について参考文献等を用いて概ね1時間の自己学習をすることが望ましい。

《課題に対するフィードバック等》

研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容をゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	リハーサル（パート別 / 部分稽古）	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習をパート別に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。（予習・復習1時間）
2	リハーサル（パート別 / 通し稽古）	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習をパート別に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。（予習・復習1時間）
3	リハーサル（全体 / 部分）	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習を総合的に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。（予習・復習1時間）
4	リハーサル（全体 / 通し稽古）	学外施設や五峯祭における作品上演のための練習を総合的に行う。〔授業時間外学習〕自己の担当する事柄について、練習や作業に取り組む。（予習・復習1時間）
5	学外施設での発表（準備・撤収）	舞台設営（装置、照明、音響、客席、袖幕の設置・リハーサル、片づけ）〔授業時間外学習〕外部施設に必要な備品を持ち出す準備および撤収（予習・復習1時間）
6	学外施設での発表（本番）	作品上演（本番）〔授業時間外学習〕リハーサル内容など、本番を想定した通し稽古において得た課題や修正点を改善するよう取り組む。（予習1時間）
7	作品上演のための準備（1）	作品上演（本番）に向けてのポスター作成、舞台設営〔授業時間外学習〕本番に向けての課題や修正点の改善に取り組む。（予習・復習1時間）
8	作品上演のための準備（2）	作品上演（本番）に向けての舞台稽古（立ち位置等の確認、衣装等の調整など）〔授業時間外学習〕本番に向けての課題や修正点の改善に取り組む。（復習1時間）
9	作品上演	作品上演（本番）〔授業時間外学習〕外部施設に必要な備品を持ち出す準備および撤収（復習1時間）
10	個人論文の作成（活動の振り返り）	個人論文の構成検討〔授業時間外学習〕これまで取り組んできた活動を映像や記録物で振り返り、整理する（復習1時間）
11	個人論文の作成（実施報告の構成）	個人論文の執筆〔授業時間外学習〕整理した活動記録をもとに実施報告として個人論文を執筆する（予習・復習1時間）
12	個人論文の作成（実施報告の執筆）	個人論文の執筆〔授業時間外学習〕整理した活動記録をもとに実施報告として個人論文を執筆する（予習・復習1時間）
13	作品発表に関する成果物の作成	取り組んだ表現発表に関する成果物の作成（動画、画像、展示物など）〔授業時間外学習〕これまで取り組んできた表現発表を振り返り、整理する。（復習1時間）
14	ゼミ内研究発表	第13週で作成した成果物を用いてスモールグループプレゼンテーションを行う。〔授業時間外学習〕各グループの発表内容について講評する。（復習1時間）
15	卒業研究発表会準備	発表内容の改善にむけて練習、ゼミ全体のリハーサル〔授業時間外学習〕自他のグループに関する発表内容の振り返り（復習1時間）

《専門科目》

科目名	卒業研究ゼミ				
担当者氏名	清水 誠				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 教養 3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力				

《授業の概要》

研究テーマに沿って個人及びグループとして研究を進める2年間の学びの集大成として取り組む学修である。ゼミでは、論文の完成に向けて研究目的の設定、資料の収集、分析、考察を仲間と協同して深める。研究成果は、個人論文とグループとしての研究成果として抄録や発表資料として完成させる。研究成果は、卒業研究発表会等の場で発表し、社会に情報発信できるようにする。

《授業の到達目標》

- ・教養教育やその基礎の上に立った専門教育の集大成として、テーマに沿った研究論文をまとめることができる。
- ・研究内容、方法、計画に沿って、仮説に基づく調査や実験を行うことができる。
- ・問題発見・解決能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力、コンピテンシーを身につけることができる。

《成績評価の方法》

研究論文と発表資料60%、卒業研究ルーブリック表に示された判定基準24%、学習履歴への記述内容16%とし、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

必要に応じ関係する論文やプリント等を配布する。

《参考図書》

- ・本学の「卒業研究抄録集」
- ・本学の「研究紀要」
- ・405教室等に掲示されたグループ研究の発表ポスター
- ・関係領域の論文等

《授業時間外学習》

毎回の授業について、過去の卒業研究や文献等を用いて概ね1時間の自己学習をする。各人が課題を追究するため、積極的に指導教員と議論するよう心がけること。

《課題に対するフィードバック等》

学習履歴表等を用い、研究テーマ、研究仮説、調査方法、データ処理、原稿執筆等について、指導教員からその都度適宜指導・助言をし、それらの内容はゼミ全体で共有する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究計画の再確認	個人論文の進捗状況、抄録作成やグループとしての発表までの研究計画の確認 [準備学習]前期までの研究の進捗状況について確認をしてくる。
2	個人論文の作成(1)	個人論文の構成検討 [準備学習]個人論文の構成を検討してくる。
3	個人論文の作成(2)	個人論文 「はじめに」「方法」の作成 [準備学習]個人の研究の動機や調査方法についてまとめてくる。
4	個人論文の作成(3)	個人論文 「結果」の作成 [準備学習]結果の下書き原稿を作成してくる。
5	個人論文の作成(4)	個人論文 「考察」の作成 [準備学習]考察の下書き原稿を作成してくる。
6	個人論文の作成(5)	個人論文 「おわりに・引用文献」の作成 [準備学習]おわりに・引用文献の下書き原稿を作成してくる。
7	個人論文の作成(6)	個人論文の提出の準備 全体の調整、まとめ [準備学習]作成した論文の見直しをしてくる。
8	グループ論文の作成(1)	グループ発表の原稿分担の確認 「考察」の内容の検討(グループワーク) [準備学習]個人研究をグループとしての研究にどうまとめるか検討してくる。
9	グループ論文の作成(2)	グループ発表を執筆分担に沿った原稿作成 [準備学習]執筆分担に沿った下書きを構想してくる
10	グループ論文の作成(3)	グループ発表の原稿の調整と全体のまとめ(グループワーク) [準備学習]各自が作成した分担を見直ししてくる。
11	抄録作成(1)	抄録内容の検討(グループワーク) [準備学習]グループ発表のために作成した原稿の確認をしてくる。
12	抄録作成(2)	抄録作成と提出の準備、電子データとりまとめ(グループワーク) [準備学習]抄録作成のための案を各自作成する。
13	ポスターの作成(1)	グループでの発表のためのポスター作成(グループワーク) [準備学習]発表内容を検討してくる。
14	ポスターの作成(2)	ポスター作成、電子データとりまとめ、発表練習、提出の準備(グループワーク) [準備学習]作成されたポスターについて検討してくる。
15	研究成果の発表	研究結果の発表、相互評価(グループワーク、発表学修) [準備学習]グループで作成したポスターの発表練習をしてくる。

《専門科目 教育の基礎的理解に関する科目》

科目名	教育実習指導				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(前期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

あそびを通して豊かな人間性を培う幼児教育の特性をふまえ、幼稚園教諭に求められる保育実践力について学ぶ。教育実習（責任実習）の意義、目的、内容・方法を理解し、実習に必要な記録力、考察力を養う。これまでの実習で得た学びと将来への展望を踏まえた自己課題を明確に示す。加えて、実習の経験をもとにグループワークを行い、自身の子ども観、保育観を構築していく。

《授業の到達目標》

[事前指導] 教育実習（責任実習）の目的と概要を理解し説明することができる。実習に必要な知識、態度、技術を身につけ、説明したり表現したりすることができる。教育実習の自己課題を明確にし、言葉化・文章化することができる。
[事後指導] 実習の振り返りを通して自己の課題を理解し、明確に示すことができる。実習を通して得られた子ども観、保育観を他者に伝えることができる。

《成績評価の方法》

提出物40%、実習前試験20%、振り返りシート40%で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規2020 小櫃智子他「実習日誌・実習指導案ガイド」わかば社2015 「実習の手引き」

《参考図書》

○幼稚園教育要領および同解説
○幼保連携型認定こども園教育・保育要領および同解説
○無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研2017
○植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006
○保育用語辞典
その他、授業の中で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習の手引きを常に熟読し活用すること 実習用ファイルを用意し、授業内で配布されたプリントを熟読し、提出物の提出日時に遅れることがないようにすること。部分・責任実習に向けて教材研究を行う。実習で必要とする文書の作成等 本科目では29時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

提出物等は内容を確認した上で受領、返却を行う。また、授業の中で常に必要な情報をフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導：教育実習の概要と目的	教育実習の意義を理解し、実習のテーマ設定、実習生調書の作成 [事前学習] 1年次の実習を振り返り、課題について確認する。テキスト を読む
2	事前指導：オリエンテーションの準備	実習園を理解し、オリエンテーションに向けた書類の作成 [事前学習] 実習園の概要を調べる。テキスト を読む
3	事前指導：責任実習の意義、実習前試験	責任実習の意義と実施に向けた準備事項への理解、実習前試験の実施 [事前学習] 試験に向けて準備する
4	事前指導：実習の記録	日録の書き方 [事前学習] 1年次の実習日誌を読み直す。テキスト 40-49を読む
5	事前指導：実習の記録	エピソードの書き方 [事前学習] テキスト 92-95を読む
6	事前指導：実習直前指導	実習中のQ&A、実習後の手続きの確認 [事前学習] テキスト 「実習前手続きから実習終了について」以降を読む
7	-	-
8	-	本科目は、通年8回開講科目である。
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《専門科目 教育の基礎的理解に関する科目》

科目名	教育実習指導				
担当者氏名	桐原 由美				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・通年(後期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		3-3 汎用的技能 4-4 態度・志向性 5-5 総合的な学習経験と創造的思考力			

《授業の概要》

あそびを通して豊かな人間性を培う幼児教育の特性をふまえ、幼稚園教諭に求められる保育実践力について学ぶ。教育実習（責任実習）の意義、目的、内容・方法を理解し、実習に必要な記録力、考察力を養う。これまでの実習で得た学びと将来への展望を踏まえた自己課題を明確に示す。加えて、実習の経験をもとにグループワークを行い、自身の子ども観、保育観を構築していく。

《授業の到達目標》

[事前指導] 教育実習（責任実習）の目的と概要を理解し説明することができる。実習に必要な知識、態度、技術を身につけ、説明したり表現したりすることができる。教育実習の自己課題を明確にし、言葉化・文章化することができる。
[事後指導] 実習の振り返りを通して自己の課題を理解し明確に示すことができる。実習を通して得られた子ども観、保育観を他者に伝えることができる。

《成績評価の方法》

提出物40%、実習前試験20%、振り返りシート40%で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

《テキスト》

大豆生田啓友他「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規2020 小櫃智子他「実習日誌・実習指導案ガイド」わかば社2015 「実習の手引き」

《参考図書》

○幼稚園教育要領および同解説
○幼保連携型認定こども園教育・保育要領および同解説
○無藤隆「幼稚園教育要領ハンドブック」学研2017
○植田光子「手あそび百科」ひかりのくに 2006
○保育用語辞典
その他、授業の中で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

実習の手引きを常に熟読し活用すること 実習用ファイルを用意し、授業内で配布されたプリントを熟読し、提出物の提出日時に遅れることがないようにすること。部分・責任実習に向けて教材研究を行う。実習で必要とする文書の作成等 本科目では29時間の時間外学習が必要である。

《課題に対するフィードバック等》

提出物等は内容を確認した上で受領、返却を行う。また、授業の中で常に必要な情報をフィードバックする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事後指導：振り返り 子どもと保育者	教育実習振り返り（グループワーク：子どもの活動と保育者の援助） [事前学習] 実習日誌の中のエピソードを読む
2	事後指導：振り返り 自己評価と学び	教育実習振り返り（自己評価と今後の課題、子どもからと保育者から学んだこと） [事前学習] 実習日誌を読み、課題について確認する
3	-	-
4	-	本科目は、通年8回開講科目である。
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-